


平成 29 年 10 月 2 日

兵庫教育大学長 殿

受入研究者

所属・職 教科教育実践開発専攻 教授

氏名 菅井三実 

外国人研究者短期招へいプログラム研究成果報告書

外国人招へい研究者の研究経過について、下記のとおり報告します。

1. 外国人招へい研究者 氏名 (所属・職・国籍) Ngo Quang-Vinh (国立ダナン大学ダナン外国語大学・日本語学科部長・ベトナム)
2. 研究課題名 日本とベトナムにおける言語教育の充実に関する調査研究 (英訳名) A research on the enhancement of language education in Japan and Vietnam
3. 期間 平成 29 年 8 月 28 日 ~ 平成 29 年 9 月 4 日 (8 日間)
4. 主な研究協力者 氏名 (所属・職・氏名) 教科教育実践開発専攻 助教 岡崎 渉

(注) 必ず招へい研究者の作成した Research Report と併せて、招へい期間終了後 1 か月以内に、提出してください。 (裏面につづく)

5. 滞在中の日程

年月日	訪問先名称・訪問内容（研究討議・講演・視察等）
8月28日	来日、本学へ到着
8月29日	受入研究者と共同研究テーマに関する打ち合わせ
8月30日	13時10分～14時50分「ベトナム事情」に関する学内講演会 15時～15時30分 学長と会談 夕刻、本学大学院生を交えての懇親会
8月31日	国際交流チームのスタッフを交えての意見交換、学内の施設案内
9月1日	東京へ国内移動(一橋大学へ情報収集)
9月2日	東京へ国内移動(一橋大学へ情報収集)
9月3日	大学周辺地域の視察
9月4日	離日

(注) 来日日及び離日を含めて記入してください。

6. 研究討議・研究協力等実施の状況とその成果

今回の招聘期間中に行った研究打ち合わせにおいては、受入研究者が重ねてきた日本語に関する基礎研究の成果を提示しつつ、ベトナムにおける日本語教育の現場について情報交換をする中で、ベトナム人日本語学習者のための独自の参考書作成の必要性が導かれた。その上で、本学で日本語教育を担当する岡崎渉助教を含め、具体的な企画と今後の進め方について一定の方向性を固めるところまで議論を深めることができた。

7. 外国人招へい研究者事業に対する意見・要望等

特にありません。

別記第 4 号様式【招へい研究者作成/By Fellow】

* Please submit your research report to HUTE through your host researcher within one month after the end of your Fellowship Period in Japan.

To President, HUTE

HUTE SHORT-TERM FELLOWSHIP PROGRAM

FOR RESEARCH IN JAPAN

RESEARCH REPORT

(Cover Page)

Affiliation: The University of Da Nang, University of Foreign Language Studies

Name of the Host Researcher: Kazumi SUGAI

Fellowship Period: From Aug. 28, 2017 To Sep. 4, 2017

Title of the Research:

A research on the enhancement of language education in Japan and Vietnam

Date: Sep. 29, 2017

Name of Fellow : Ngo Quang Vinh

Signature: 

* Future Contact Information

(If you wish HUTE to maintain contact with you after the completion of your fellowship)

TEL (Office)

(Home)

FAX

E-mail

Address

(Please turn over.)

A 2017 年 8 月 30 日の講演会の内容（「ベトナム事情 2017」）を抜粋し、以下の通り報告を行う。

1 ベトナム語の表記法の歴史

- ・紀元前から中国の支配を受けていたため、ベトナムの古典や歴史的な記録の多くは、漢字による漢文で書かれており、漢字文化圏である。
- ・現代語を見ても、辞書に載っている単語の 70%以上が漢語の影響を受けており、漢字表記が可能であると言われている。
- ・よって、同じ漢字圏の日本語と発音が似ている単語も多くあり、漢字に変換して覚えられる。
- ・例： Trung Quốc（読み：チュン・クオック） → 中国
quốc gia（読み：クオック・ザー） → 国家
- ・フランスが影響を及ぼす以前のベトナムでは、漢字の他に「チュ・ノム」（Chữ Nôm/字喃、喃字。漢字を応用して作られた文字）と呼ばれる独自の文字が使われていた。しかし、「チュ・ノム」は難解さに加え、その後の歴史の流れとともにほとんど使われなくなった。代わって用いられるようになったのが、ヨーロッパの宣教師（Alexandre de Rhodes/17 世紀）によってもたらされた「クオック・グー」（quốc ngữ/國語）であった。
- ・1954 年のベトナム民主共和国の成立により、ベトナムの国字として漢字に代わり「クオック・グー」が正式に採用された。



2 ベトナムの歴史

ベトナムの歴史は大きく以下の 5 つの時期に分けることができる

- ・黎明期：ベトナムにはおよそ 30 万年前の旧石器時代の遺跡が発見されている。しかし、歴史の中に国家として登場するのは、紀元前 2880 年ころの「フン・ヴォン（雄王）」の「ヴォン・ラン国（文朗国）」が最初である。雄王の伝説は現在もベトナム人の間に親しまれており、ベトナムの文化を形成する一つの遠い紀元になっている。
- ・中国の支配（独立への長い道のり）：秦の始皇帝時代に、始皇帝は北からの敵に対しては万里の長城で備えをして、南のベトナムに対しては侵略をする政策を行う。北には資源がなかったのですが、南のベトナムには象牙や白檀などの特産品や、紅河デルタ（現在のハノイあたり）に広がる豊かな土地があり、この地方への侵略は中国にとって魅力的な政策だったのである。紀元前 207 年始皇帝は部下のチョウ・タ（趙陀）に兵を預けてベトナムを侵略する。1 千年間、ベトナムは中国に支配され続ける。
この間、中国の支配は過酷を極めたが、同時に中国の様々な文化をベトナムへもたらした。
- ・ベトナム王朝時代（中国からの独立）：939 年にベトナムは英雄ゴ・クエン（呉権）によって独立を勝ち取った。ゴ・クエン（呉権）呉権の死後、ベトナムは分裂してしまう。この分裂状態を統一したのが英雄ディンボリンです。彼はホアルウを首都に定めディン王朝を建てる。しかし

彼の死後、再び中国が侵略を始めたため、レホアン（黎垣）将軍がディン王朝を廃止し自ら皇帝の座に着く。これが黎（レ）朝の始まりである。

黎朝→李朝→陳朝→（後）黎朝→グエン王朝とベトナム王朝は続く。李・陳・黎・阮朝は国家の独立・統一を強化・維持する（939～1857）。

陳朝は3度（1258年、1285年、1288年）に渡って、モンゴルの侵攻を受けるが、3回とも勝利。

・フランスの支配（フランスの植民地時代）：グエン王朝を開いたジャロン（嘉隆）帝は、ベトナムを統一するさいに、フランスの手を借りる。ちょうど、イギリスがアヘン戦争で清と呼ばれていた中国を植民地にしようとして、東アジア全体に手を伸ばしていた時である。フランスはグエン王朝に巧みに軍事と外交を使い、ついにベトナムを植民地にすることに成功する。

1940年にはフランス統治下のベトナムに日本軍が進駐してくる。しかし、1945年8月15日太平洋戦争が終結し、ベトナムを占領していた日本軍が連合国に無条件降伏すると、8月16日ベトミンは総蜂起し9月2日にホーチミン主席がベトナム民主共和国の独立宣言を行う。

1945年9月2日のベトナム民主共和国の独立宣言によって、ベトナムは一応独立したものの、フランス政府はあくまでベトナムを元の植民地に戻そうとした。

1949年6月14日フランスはベトナム国を樹立しバオダイ帝を立て傀儡政権を作り上げる。これに対して設立まもない中華人民共和国がホーチミンのベトナム共和国を1950年1月18日に承認し、1月31日にはソ連のスターリンも承認する。ここに、ベトナム国内の上に、資本主義国家対社会主義国家の構図が描かれることになる。

1954年にベトナムがフランスを破ったディエンビエンフーの戦いはフランス統治の終了という結果をもたらした大きな勝利であった。

・ベトナム（抗米）戦争：

1954 5月7日 ディエン・ビエン・フーの戦いでフランスの敗北。

1954 7月21日 ジュネーブ協定

ベトナムは北緯17度線で南北に分断される。17度線以北はベトナム民主共和国、以南はベトナム共和国

1955 10月26日 アメリカが後ろ盾となり、ゴ・ディン・ジエムが初代大統領になる（ベトナム共和国の建国）。

1964 8月2日、4日 トンキン湾事件。アメリカ軍はベトナムへの直接介入の口実とする。

1973 1月27日 パリ和平協定（ベトナム和平協定）

正式名「ベトナムにおける戦争を終結させ、平和を回復するための協定」

ベトナム民主共和国、南ベトナム共和国臨時革命政府、アメリカ合衆国、ベトナム共和国が調印。

ベトナム戦争は1975年4月30日に北ベトナム正規軍がサイゴンの首相官邸を占領し終結する。

3 ベトナムの教育

・ベトナムの教育のねらい：「教育事業を発展させ、国の教育管理体制を強化するのは、国民の知的水準の向上、人的資源の開発、国土の工業化・近代化に貢献する人材の育成、祖国建設・防衛要求への対応、及び国民と国を豊かにし、公正な社会と高度な文明を実現するためである」

・ベトナムの学校制度：ベトナムの学校は、5、4、3年生である。つまり、小学校5年、中学校4年、高校が3年。この中で、義務教育とされているのは、小学校の5年間である。ベトナム政府は就学率の向上に力を入れており、全国的には小学校の就学率は90%を超えている。

◇識字率は東南アジア諸国でダントツに高く、若い世代では100%近くになっている。

大都市（ハノイ、ホーチミン、ダナンなど）では、高校まで進学するのが当たり前となっているが、地方都市（農村部、山間部の少数民族が住んでいる地域）では、小学校を卒業していない子供も少なからずいる。

ベトナムの学校は9月始まりの2学期制。



・**小学校の教育**：小学校は5年間の義務教育。日本と同じように人間形成の基礎段階と位置づけている。目指す「知識」の習得：「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、計算することの基礎的技能、身体を鍛練する習慣、衛生的な習慣、歌唱、ダンス、音楽、美術の基礎知識」。

さらに教室には、児童生徒へのホーチミン語録より

- ① 愛国心を持ち、人を愛する
- ② よく勉強し、よく働く
- ③ きずなを強く、法を守る
- ④ 衛生を保つ

⑤ 謙虚・誠実・勇気 が掲げられており、いつもこれを目標にして努力するように求められる。

小学校でも**2部制**をし学校が多い。都市部では、生徒数の増加のため教室が不足し、地方では教員不足のために午前と午後の2部制をしかざるをえない。

多くの教科は日本と同じ。例えば、国語、算数、道徳、自然科学、歴史と地理、音楽、美術、体育など。

・**ベトナムにおける初等教育での日本語教育**：2016年度から、小学校3年生からの第一外国語としての日本語教育が導入。ハノイ、ホーチミンで試験的に実施し、その後順次ベトナム各地での導入に取り組む。

B 兵庫教育大学での研究活動について以下の通り報告を行う。

Kazumi Sugai 先生との 打ち合わせ&日本語教育の教員との意見交換の結果：

- ・今後の共同研究の可能性
(ベトナム人日本語学習者向けの教材作成の企画等)
- ・兵庫教育大学とダナン大学外国語大学における国際シンポジウムの開催の検討
(趣旨:両大学の学生の互いの国の事情に関する理解を深め、交流を活性化させる機会とするとともに、両大学の学生に国際シンポジウムへの登壇の機会を提供する。)



今回の兵庫教育大学の外国人研究者短期招聘プログラムを通じて、貴大学の大学生、大学院生にベトナム事情について紹介することができ、貴大学の学生がベトナムの教育制度等について多少理解していただけたと感じている。また、貴大学の日本語教育の教員と内容の濃い意見交換ができ、今後の両大学の学術交流に大いに繋がることも期待している。